

# 本当は怖い「社員一丸」理論

## カエルとサソリの寓話

この話は、作者は不明ですが、ベトナム戦争時代にベトナム人の子供の間で発生したといわれています。

川を前にカエルとサソリが佇んでいます。二人は距離を置きながら何故か気が合いました。サソリは言いました。カエルさん、私を乗せて向こう岸まで行っておくれ。」イヤだね。だって君は刺すだろ。」バカな、泳げない私がそんなことする訳ないよ。」それもそうだな。よし、背中に乗りな。」人のよいカエルはサソリを背に乗せ、川を渡り始めました。半ばも過ぎた頃、サソリはチクッとカエルを刺しました。薄れていく意識の中でカエルは聞きました。なぜ?。溺れながらサソリが悲しげに言いました。ごめん。これが僕の「煙」なんだ。・・・

要するに、敵同士同盟を組んでも、所詮は「敵同士」でしかないということ。この寓話からは、人間が生まれながら持っている**性格は、簡単には変えられないという教訓が導き出されます。**

これは、人間の本質を突いた例え話として、漫画「サイボーグ009」や映画「クライミング・ゲーム」のなかでも効果的に用いられています。

## 会社の「性」に従っていませんか？

カエルはサソリに良く見られたいと思い、サソリの提案「背負って泳ぐという労働強化」を受け入れます。結果として、共倒れのように見えますが、一緒に渡ろうと言ったサソリだけがカエルを刺すという別の目的を達成しています。

この寓話は労使関係にも応用できます。会社は儲かれば労働者も儲かる、**労使の利害は一致している」と見誤り、労使協調を声高に叫んだ結果、単に労働強化され、会社だけが利潤を最大化し続けているのが現状です。**会社は労働者をより安い賃金で長く働かせること、労働者はより短い時間で高い賃金で働くことで利潤を最大化するものであり、そもそも利害が一致するはずがありません。

社員一丸となつて、JR九州を盛り上げましょう!。まるで運動会でもやっているかのような気分にはさせられますが、労働者として、自分の生活が「犠牲」になつていないかという論点を見失ってははいけません。

「会社が潰れたら困るだろ?」と脅されて、いろいろと「協力」してきたけど、僕の職場、いつの間にか無くなった...



向上心のつもりが、「奉仕精神」になっていませんか?



# 若い力

第 132 号

2020年 3月1日

発責 国労九州本部



博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515